

「イノベーション」の壁③個人編

企業経営漫談士 岡野実空

今回のコラムは、「大企業病」(0-8 参照)に陥った自社を何とかしたい、という意識を持ちながら、なかなか現場発「草の根イノベーション」のアイデアが浮かばないというミドルが対象です。すでにその解決に向け、読書や研究会など、日常的に行動している方は、個人の習慣に関わる阻害要因のチェックと、その改善のためのヒントとしてお読みください。

阻害要因1: 視野狭窄

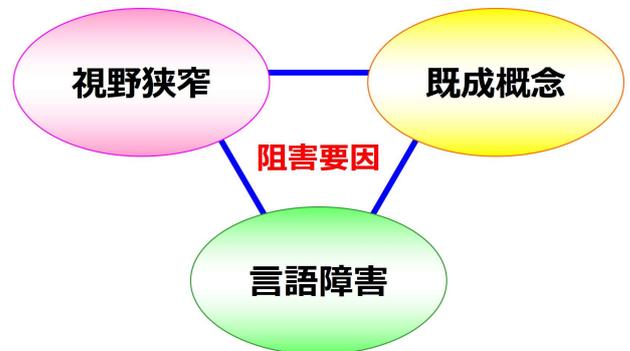
若手社員はまず与えられた業務に取組み、下積みで仕事の深みと広がりを感じていくことが大事です。面白い仕事という「青い鳥」を探して転職を繰り返したり、まともな実務経験もないまま、MBA レベルで有能と勘違いしてしまう若者に欠けているのは、まさしくこの「仕事の根」。しかしこの重要な時期は、「視野狭窄」という強い副作用を伴います。特定の分野に根を張るため、他の業務や業界には疎くなる危険性が大。それを自覚し、多様な「読書」や畑違いの友人などとの「交流」をつうじて、仕事の共通部分や特殊性を認識しておくことは、将来の飛躍への助走となります。とはいえ、皆さんはこの時期をすでに通過済み。せめて、スマホ依存症の若手や後輩に、この期間と習慣の重要性を強く訴えてください。

阻害要因2: 既成概念

「読書」や「異業種交流」は、「情報」の収集に役立ちますが、それ自体が目的なら、いまやインターネットに優るものではありません。しかしそれらを「体系」をもつ「知識」に昇格させるためには、「読書」が欠かせません。それはまた、「視野狭窄」が引き起こす、自分の「先入観」や「固定観念」などの「既成概念」をしっかりと棚卸してくれます。そしてそれら「既成概念」や「前提条件」の否定や見直しによって得られる「アイデア」こそが、我々凡人にとって、「自分発」イノベーションへの貴重な第一歩なのです。

また複数の業務を体験し、マネジャーともなれば、だれでも自分の仕事に一家言持つのは当然。しかし、そこで「井の中の蛙」にならないためには、社内他部門の同僚や後輩などと積極的に交流し、違った「視点」から、自分の役割や業務を見直し続けることが必須です。その上で、他社、他業界の方との交流を活発にすれば、自分の「知識」が、さらに一段上の「見識」として通用するか否か検証でき、視野もさらに広がります。その上で、他分野から得られた「知識」をしっかりと消化し、「知恵」として自分の仕事に適用することができれば、「既成概念」の否定に加え、さらに強力な「創造性」の武器を取得したことになります。

KM 3-16 「イノベーション」の壁③個人



阻害要因3: 言語障害

「既成概念の否定」「他分野からの知識転用」は「創造性の二本柱」ですが、その域に近づきながら、良いアイデアが出ず、悶々としているミドルにとって、最後の関門は「日本語」。すなわち、さまざまな気づきが的確な言葉として表出できないので、なんとなく自信も持てず、それを他人に伝えて切磋琢磨することもできないのです。そんな悩みを抱えるミドルに、「グローバル化」という名の下、英語教育が優先されているのが現在の恐るべき実態。しかもその流れは、大学から高校、中学へ遡り、ついに小学校にまで到達しました。バイリンガルでもない限り、「日本語」を使って「情報」を「知識」とし、その内容を「対話」「会話」をつうじて「知恵」に高めることが思考の基礎です。

ところが「スマホ文化」の下、いま後輩に「いいね！」族が大増殖中。上流からの「大企業病」と下流の「スマホ依存症」の挟み撃ちに遭うミドル諸氏、団結せよ！ 集団で3つの「阻害要因」突破に立ち向え！！

平成 29 年 5 月 15 日 実空